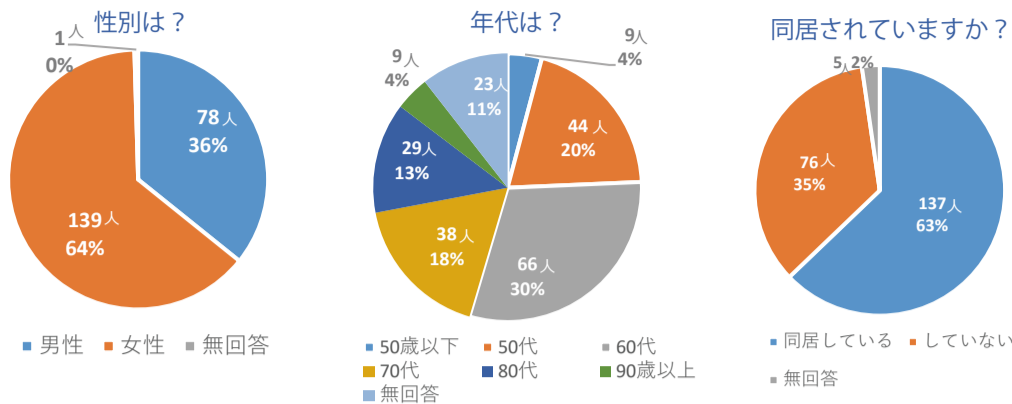


共愛会における新型コロナウイルス感染症及び ACP に関する意識調査

対象者： 共愛会 患者さま・ご利用者家族 期 間： 2020年5月11日～5月31日
 配布数： 380人 回答数： 218人 回答率： 57%

◆アンケートに回答されている方のことについて教えてください。

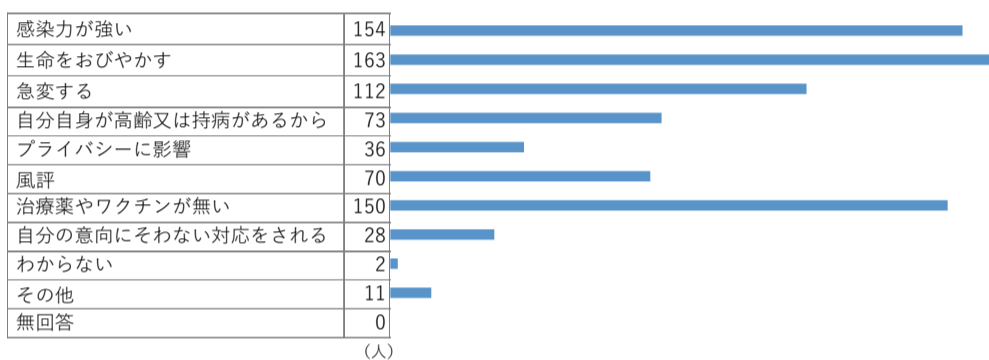


問1 新型コロナウイルス感染症 に対する 恐怖を感じますか？



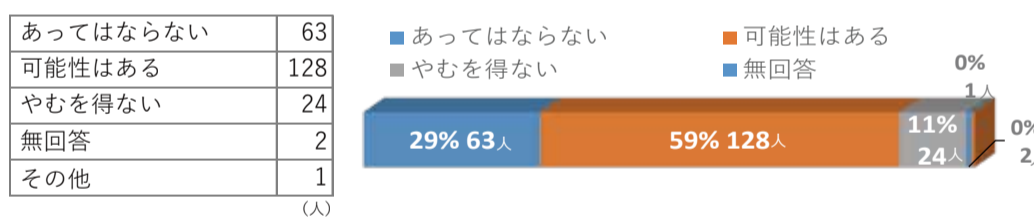
＜考察＞
 回答者の9割が恐怖を感じるに回答。多くの方が新型コロナウイルスに対する恐怖を感じている。理由としては、くり返す報道等からの感染者数、クラスターの報告、有名人の感染等の情報、確立した治療法や薬がないことも大きく関与しており、「死」を連想させるからではないかと考える。

問2 新型コロナウイルス感染症 に恐怖を感じる理由は？（複数回答可）



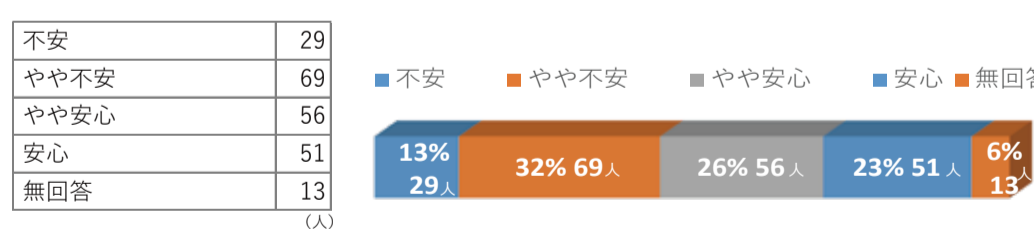
＜考察＞
 「生命をおびやかす」「感染力が強い」「治療薬やワクチンがない」という順に回答が多かった。これは、新型コロナウイルス感染症に関係した情報の中心が、重症者に関連するものであることや、重症者がいる一方で、無症状感染者も存在するなど、誰が感染しているのかわかりにくいという状況も発生しているからではないかと考える。一方、「風評」「プライバシーに影響」という回答もあり、感染者等に対する世間の反応について恐怖を感じていることがわかる。その他、「PCR検査が少ない」や発熱者に対する対応が遅いなど、医療体制の不備や情報不足、症状が風邪などと同様のため「もしかしたら新型コロナウイルス感染症にかかっているかもしれない。」という心理的なものが恐怖を感じさせたのではないかと考える。

問3 院内感染、施設内感染が全国で起こっていることを、どのように感じられていますか？



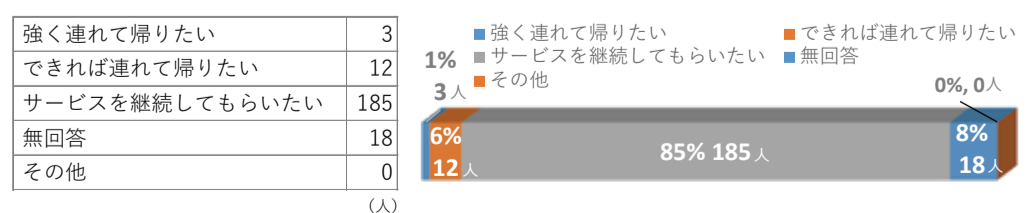
＜考察＞
 約3割の方は「あってはならない」と回答している一方、7割の方が「可能性はある」「やむを得ない」と回答している。院内感染、施設内感染は「あってはならない」ということは現場としては当たり前のことである。しかし回答者の方々は、新型コロナウイルス感染症の完全な防止が困難な現実を理解された上で、ご家族が入院、入所している施設でクラスターが起こりうることを危惧し、身構えていることを伺わせるものであることが分かった。医療・介護の現場がクラスターになりやすい環境であることを踏まえて、医療、介護従事者はより一層感染防止対策に力をいれなければならない。

問4 ご自宅・ご家族から離れていることについてどのような気持ちになりますか？



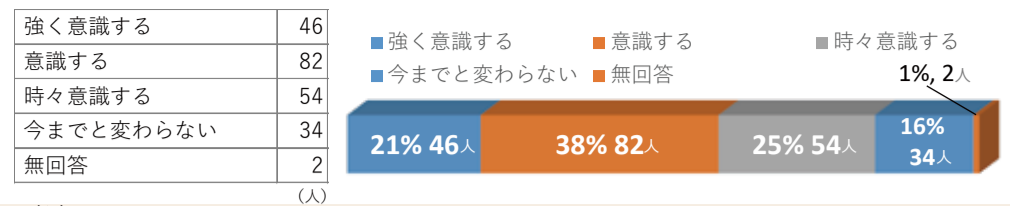
＜考察＞
 「不安」と「安心」がほぼ同じという結果であった。このことから、医療、介護が身近にあることが「安心」につながった一方で、新型コロナウイルス感染症対策のひとつとして、面会禁止、入館禁止を行ったことで、本人の様子が目に見えてわからないということによる「不安」や院内感染、施設内感染への「不安」があったのではないかと考える。

問5 新型コロナウイルス感染症が流行している状況で、できるならばご自宅に連れて帰りたくと思われませんか？それとも、サービスを継続してほしいと思われませんか？



＜考察＞
 「サービスを継続してほしい」との回答が8割以上と圧倒的に多かった。今後、新型コロナウイルスが蔓延したとしても、今の生活スタイルを変えることは難しいと考えている方が多いことが伺える。少数意見の中の「連れて帰りたく」という意見では、院内感染、施設内感染の報道などに接し、感染リスクを考慮した結果の思いであると判断する。できる限り希望に沿った対応が必要と思われる。

問6 新型コロナウイルス感染症の拡がりのなかで、ご自分も含めご家族の死を、今まで以上に意識したことがありますか？



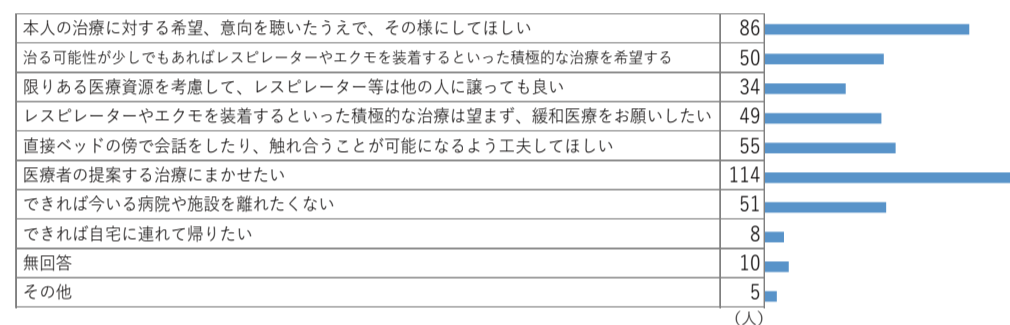
＜考察＞
 「意識する」という回答が8割を占め、問1・問2にあるような恐怖が、「死」を意識させたのだと考える。また、「今までと変わらない」という意見もあった。これは、この地域で新型コロナウイルス感染症の発症者が幸いにも少なかったことや、地域性として都会のように密集した環境が少ないこともあるのではないかとされる。新型コロナウイルス感染症の拡がりを防ぎようがない、若しくは成り行きに任せるしかないという前提で、死を受け入れる覚悟を感じた方もおられるかも知れない。

問7 新型コロナウイルス感染症の拡がりのなかで、入院、入所、デイサービスを利用されている方の「お気持ち」をお聞きになりたいと思いませんか？



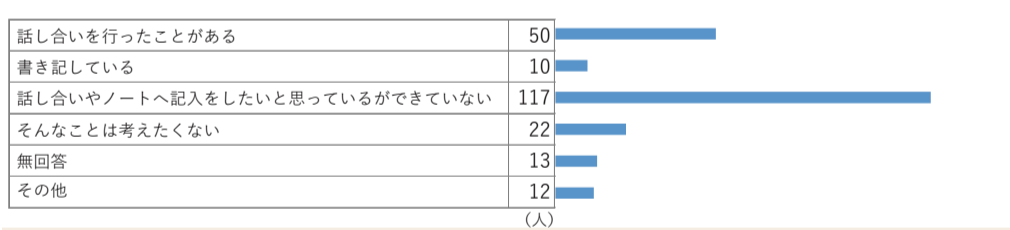
＜考察＞
 「思う」との回答が7割を占めた。新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに家族の中での会話をしてみようと思われた方が多かったのではないかとされる。また入院、入所、デイサービスを利用されている方が、本感染症の重症化リスクが高い高齢者であることから、“もしも感染して入院治療へと進んだら…”ということを想定し、ご本人の意向確認を急ぎたい想いも在るのではと考える。

問8 新型コロナウイルス感染症に感染した時は、法律により指定された感染症専門病院に入院となり、病状に合わせた治療が行われます。入院、入所、デイサービスを利用されている方がもしも重篤な状態になったことを想定するとしたら、何を大事にしたいと思いますか？（複数回答可）



＜考察＞
 「医療者の提案する治療にまかせたい」が最も多かった。次いで「本人の治療に対する、希望・意向を聴いたうえでそのようにしてほしい」が多かった。新型コロナウイルス感染症の場合は、治療法もわからない未知の病気であることもあり、重篤な状態になった場合は医療者の提案に任せたいと考えたのではないかと。一方、治療内容に関する用語の意味が理解できないままに、用語だけが先行してしまい何ができるのか、何を大事にするのか、どこでできる治療なのかかわからず回答している可能性もある。感染後の詳細な医療情報の提供は今後必要不可欠だと考える。

問9 「人生会議」とは、自分で自分のことが伝えられなくなったときの場合に備えて、信頼できる家族等と医療者などと、自分の希望する医療や介護についてあらかじめ話し合いを行っておく取り組みのことですが、今までに、そういった、自分の今後について話し合いを行ったり、何かに書き記しておいたことがありますか？（複数回答可）



＜考察＞
 「話し合いやノートへ記入したいと思っているができていない」が5割を占めている。しかし、「話し合いを行ったり、書き記している」との回答が2番目に多く、約3割の方が、「人生会議」を家族間で行ったことがあるということは注目すべき点だと考える。自由記載の中で、「他人事ではない」「話し合う努力をしたい」という前向きな意見もあった。一方、「本人が認知症で出来ない」という意見もあり、適切な時期を医療、介護者も見逃さずアプローチする必要があると感じた。

問10 新型コロナウイルス感染症は、感染すると重症化する可能性もある病気ですが、例えば、ご自身が感染症にかかった場合にどういった治療をどこまで受けたいかということをお考えいただけますか？（複数回答可）



＜考察＞
 「考えることがある」が約5割、「どういった治療ができるのかわからないので考えようがない」が約3割であった。考えることがあったとしても、医療情報の乏しさから具体的な治療内容がわからないため考えようがないのではないかと。また、少数意見ではあるが、「考えたくない」と回答した方も存在した。これは、報道などによる情報が恐怖を惹起しているか、情報量の多さによって何を信じて、行動したらいいかなど判断に迷っているからではないかと。「考えることはない」と回答した方については、感染者が身近にいないことによって現実味がないためではないかと考える。

この地域においても「新型コロナウイルス感染症」に対する意識が最も緊迫した期間に大変貴重なご意見を賜ることができました。こちらのデータは共愛会だけに留まらず他学会でも共有させていただいています。尚、紙面の都合上、その他のご意見及びご要望等は掲載しておりません。共愛会ホームページ (<https://kyouaikai.or.jp>) よりご覧ください。ご協力いただいたご家族のみなさまありがとうございました。

